令和7年度上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第1回こどもサービス連絡会	参加者数	55人	会場	伊那市防災 コミュニティセンター 多目的ルーム
	日時	令和7年7月7日(月) 13:00~15:00				
主 題 マ	(1) 今年度の活動計画 (2) 研修 (3) グループワーク (4) その他連絡					
	(1) 今年度の活動計画 第2回は昨年同様、相談支援専門員連絡会と合同開催を予定。児童発達支援事業所の理解を深めていく。 (2) 【研修】行動障がいのあるお子さんへの支援について 講師:NPO 法人たんと 理事長 擁護者へのアンケート調査の結果、中学校及び高等学校に在籍している時期が最も行動障害が重篤であった。小学生まではなんとかごまかせたものが、身体の成長・発達に伴い制御が困難となった事が示唆される。 ⇒本人も家族も困難を伴う状況になる前に、乳児期・学童期のうちに本人に合った学び方でコミュニケーション方法を身に付ける等、適切な関りが重要になる。 ◇問題行動を繰り返さないためには 行動には必ず理由があるため、根底にある原因の解決が必要。 特に初回時の問題行動の状況把握が大切。 早い段階で対処しないと誤学習に繋がってしまう。 落ち着いている時と問題が生じている時の対比も重要である。 ◇行動障害の深刻化や顕在化を未然に防ぐためには 日々の行動や変化を把握するための記録をとる。 (スキャッタープロット、行動機能診断スケール(MAS)、応用行動分析(ABA)、ストラデジシート等) 問題が起こりやすい時間帯や行動パターンや周期性を把握した上で適切な支援を行う。 問題行動に着目した記録は次の支援に繋がり、職場内や多職種との共通理解も図りやすくなる。 支援計画を実施したあとも、データを元に支援を再検討することができる。 おんぶや抱っこ等、大人になってから難しいコミュニケーション対応はしない。 10~20年後の姿を考えた適切な支援をしていくことが大切である。 (3) グループワーク 事例をもとにグループワークを実施し、各グループで話し合った内容を全体で共有した。 (4) その他連絡 ・地域支援について(児童発達支援センター小鳩園) ・絵本をつかってはじめよう!こどもたちへの性教育の案内(性の学び合いねっとわーく) ・フリーキッズ・ヴィレッジチラシ配布(クラウドファンディング・ホースセラピー講座の案内) ・相談支援事業の開始について(きらきら福地)					
ま と め	・行動障害のメカニズムや記録の大切さについて理解を深めることができた。 ・グループワークにより有意義な意見交換ができ、多職種で検討を行う大切さも再確認できた。					
次 回	10/14(火)13:00-15:00 相談支援専門員連絡会と合同開催 場所：伊那市役所1階 多目的ホール					